

重心分科会について

1 設立趣旨

久留米市では、営利法人において平成 21 年に国のモデル事業として障害児のお泊り事業を実施。更に療育センター等施設や在宅サービス事業所との相互協力の連携会議を実施。平成 23 年からは、久留米市介護福祉サービス事業者協議会（以下、事業者協議会）に久留米市医療的ケア短期入所支援体制整備事業を委託し、医療的ケアが必要な重症心身障害児のレスパイト事業を行った。そこで上がってきた課題を整理するために、平成 24 年に、重症心身障害児・者の地域生活モデル事業を実施するなど、積極的に地域での課題に対応すべく、関係機関との連携強化や社会資源の開発に努めてきた経過がある。

平成 29 年 7 月、地域生活支援協議会の再編に伴い、重心分科会を設立するにあたり、これまで事業者協議会が行ってきた連携会議参加者にも協力をいただき、地域生活支援協議会に関わってもらうこととなる。分科会では、個別ケースを通して、重症心身障害児・者や医療的ケア等が必要な障害児・者のニーズ把握や災害時の対応を検討し、その中から地域課題を抽出し、連携会議の構成員や課題に関わる関係者と課題を共有し、解決できるような仕組みづくりを目的とする。

2 分科会構成

非掲載

3 これまでの取り組み＜令和 5 年 8 月～令和 6 年 7 月まで＞

（1）目標

久留米市第 3 期障害者計画には「防災・防犯対策の推進」が掲げられており、災害時の備えに関する取り組みとして、重症心身障害児・者の個別ケースの検証を積み重ねていく中で課題を整理し、災害時要援護者支援体制の充実を図る。重心・医ケア児の卒業後の進路や就労についての実態や支援の状況を把握し、分科会としての取り組みを検討していく。

また、事業者協議会が主催する連携会議に出席し、地域の現状を把握し、その中から見えてきた課題を抽出するとともに解決に向けた取り組みを行うことも目標とする。

（2）取り組み

※令和 5 年度は 9 回の分科会と 4 回の事務局会議を開催した。

①医療ケア児が生活している地域と連携して避難訓練を実施した。

ア) 令和 5 年 6 月に実施した避難訓練を振り返り、相談支援専門員と連携し、今後の課題や改善点を整理した。整理後はこれまで取り組んできた資料の改正を行い、分科会に参加している関係機関に配布した。

② 重心・医ケア児者の生活実態を把握し、課題について検討した。

ア) 市内特別支援学校の進路担当者へ卒業後の進路や生活について調査を実施。

高等部卒業後の進路や就労状況について、進路指導担当者へ聞き取り調査を実施。その後、直接進路担当者と意見交換を行った。

イ) 難病の現役高校生と進学に関する意見交換。

相談支援専門員が関わっている普通高校に通学している大学進学を目指す難病の方との意見交換を行い、学校生活の実態や支援内容、進学に向けて将来受きたい支援などの聞き取りや意見交換を行った。

ウ) 重心・医ケア特化型の児童発達支援及放課後等デイサービス事業所の情報収集及び意見交換。

コミュニケーション支援や就労を見据えた取り組みを実践している事業所より情報提供を受ける場を調整した。

③ 重症心身障害児・者地域生活支援事業連携会議への参加及び課題分析。

ア) 連携会議開催時に、分科会の活動報告を行った。特に災害支援においては参加者と避難場所や在宅要支援者の支援の在り方について意見交換をすることができた。

(令和 5 年 11 月 2 日、令和 5 年 12 月 5 日、令和 6 年 3 月 7 日、令和 6 年 7 月 4 日)

④ 久留米市介護福祉サービス事業者協議会主催の研修会に協力。

・ 医療的ケア児等コーディネータースキルアップ研修

(令和 5 年 12 月 5 日)

・ 令和 5 年度久留米市重症心身障害児者地域生活支援事業

「重い障害があっても当たり前で地域で生きていくために」

(令和 6 年 3 月 24 日)

・ 地域生活サポート研修会 (防災編)

(令和 6 年 6 月 16 日)

⑤ 福岡県医療的ケア児センターが実施する県南地域研修会への協力

・ 医療的ケア児等への支援に関する情報交換会

(令和 5 年 5 月 30 日、令和 5 年 9 月 28 日、令和 6 年 2 月 6 日、令和 6 年 7 月 11 日)

(3) 成果

① 地域の支援者と連携し、避難訓練を実施することができた。課題を整理していく中で地域毎に避難レベルに応じた避難先の情報収集すること等、細かな地域診断が必要であることが分かった。なお、家族が地域の方と避難訓練を実施したことで、生活圏域での地域との繋がりを持つことができ、家族が地域の行事に参加するなどの波及効果もあった。

- ②市内の特別支援学校に調査を実施したことで、対象となる学生の進路について実態を知ることができた。進学を希望する当事者との意見交換では、通学している学校の支援体制や進学後の福祉サービスの利用について支援者がイメージすることができた。
- ③事業者協議会の主催する重症心身障害児・者地域生活支援事業連携会議に出席することで、地域課題の把握や関係機関との連携強化を図ることができた。
- ④事業者協議会の主催する研修会に協力することで、医療的ケア児・者等を支援する家族や関係機関等への情報共有の機会を提供することができた。
- ⑤福岡県医療的ケア児支援センターが実施する県南地域研修会の運営協力を行い、会議では各地域の支援者と課題の共有や社会資源等の意見交換を行うことができた。

4 課題

- ・地域における重症心身障害児・者及び家族の課題の抽出
- ・教育、医療、地域、福祉等の連携について
- ・地域の社会資源の創出について
- ・医療的ケア児・者等の問題について
- ・災害支援について
- ・相談支援体制の構築について
- ・地域との連携の在り方について

5 事業計画＜令和6年8月以降の取組み＞

（1）目標

令和6年度も引き続き、重症心身障害児・者の災害時の備えに関して、関係機関や地域と災害時要援護者支援体制の充実に向けた取り組みを行っていく。令和5年度から協議している重心・医ケア児の卒業後の就労や進学について、当事者と意見交換を行いながら抱えている課題を整理し、解決できるような取り組みを行っていく。

また、事業者協議会が主催する連携会議や市内の医療的ケア児等コーディネーターが主催する研修会の協力を行うことで地域課題を把握し、必要な課題を抽出するとともに解決に向けた取り組みを行うことも目標とする。

（2）取組み

- ①重心・医ケア児、難病の方の卒業後の進路や生活について課題整理を行う。

ア）特別支援学校への聞き取り調査を基にした課題整理。

イ）現役高校生の進学に向けた課題整理及び意見交換を実施し、必要

な社会資源の把握及び利用に向けた取り組みを行う。

ウ) 重心特化型の児童発達支援及び放課後等デイサービス事業所との意見交換を行い、各事業所の取り組みを整理し、情報発信を行っていく。

② 災害時支援の取り組み

ア) 災害時の備えについて、相談支援専門員より相談のあったケースについて一緒に検討を行っていくことで、よりよい支援体制の構築を目指していく。また同時に、当事者や家族が安心して地域で生活していくことができるように、地域住民と繋がると共に、医療的ケア等を必要とする方達への生活への理解につなげる。

③ 重症心身障害児・者地域生活支援事業連携会議への参加。

ア) 連携会議へ出席し、分科会の取り組みについて報告を行う。

イ) 参加する関係機関と情報共有を行い、分科会で取り組むべき課題を抽出し、今後の活動内容を検討する。

④ 久留米市介護福祉サービス事業者協議会の研修会への協力。

⑤ 福岡県医療的ケア児支援センターが実施する県南地域研修会への協力。

(3) 期待される成果

① 重心、医ケア児を支援している事業所の情報整理を行い、利用を検討している当事者や家族、または支援を行っている学校の教員や相談支援専門員に情報提供することで、当事者の進路の選択肢の幅を広げることができる。また、進学を希望する高校生と意見交換を行っていき、支援経過を整理・検証することで、ライフステージに沿った支援の充実を図ることができる。

② 災害時の備えに関して、個別事例を積み重ね、様々な課題の抽出を行い、その解決に向けた取り組みを個別に検討実施することで、よりよい支援体制の構築を目指すことができる。地域住民と繋がることで、地域住民の重症心身障害児や医療的ケア等を必要とする方達の生活への理解が深まり、当事者や家族が安心して地域で暮らすことにつながる事が期待できる。

③ 重心・医ケア児の支援を行っている事業所の取り組みを聞き、意見交換する場を設け、生活実態や社会資源等の情報共有を図ることで、不足している支援を把握し、創出に向けた取り組みを行うことができる。

④ 事業者協議会や久留米市の医療的ケア児コーディネーターと連携を図り、地域における重症心身障害児・者及び家族の課題の抽出を行うとともに、関係機関との連携体制の強化を図る。

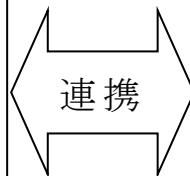
《地域生活支援事業》

◎内容

- ・地域生活支援コーディネート
(退院支援)
- ・利用円滑化コーディネート
(医療的ケア短期入所事業)
- ・研修会、講演会の実施
- ・相談会の実施
- ・連携会議

◎メンバー

- ・医療機関
- ・訪問看護事業所
- ・療育機関
- ・教育機関
- ・相談支援事業所
- ・介護福祉サービス事業者協議会
- ・市障害者福祉課
- ・基幹相談支援センター



《重心分科会》

◎内容

- ・地域課題の把握
- ・災害時の対応
- ・卒業後の進路や生活等

◎メンバー

- ・分科会会長、副会長
- ・課題に関わる関係者
(課題に応じて関係者を募る)
- ・市障害者福祉課
- ・基幹相談支援センター